





～名古屋市住宅都市局名港開発振興課からのお知らせ～

《中川運河における令和6年度の取り組み》

社会実験について(草案)



-  各支線・幹線の核となる拠点
-  多様な人々の交流によるにぎわい創出に向けた社会実験
-  松重閘門周辺エリアを活用した社会実験
-  堀止緑地を活用した社会実験

■松重閘門周辺エリア

実施時期	R6.10～R6.12の期間のうち2日間程度
実施主体	名古屋市
対象施設	旧松重ポンプ所：SRC造、建築面積約380㎡、軒高約8.5m 松重閘門公園：松重閘門を含む約2,300㎡(両側)
主なイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・旧松重ポンプ所や松重閘門などの歴史資産を、地域や市内外の方に広く知ってもらい、歴史を身近に感じてもらえるような空間を目指す ・そのためにどのような使い方ができるか、また、継続していけるかなどを社会実験を通して検証していきたい (例えば…) 飲食・物販、船の運航などの楽しめるイベント 松重エリアの歴史を学び、小学生等の子供でも参加できるアートイベント などについて、地域学区と一緒に決めていく

■堀止緑地〈参考〉

実施時期	R6.11～R7.2の期間のうち2週間程度
実施主体	名古屋港管理組合、名古屋市
対象施設	堀止緑地：約10,850㎡
主なイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・堀止東側の開発に加えて、西側の堀止緑地において昼夜を問わず、地域にとっても、憩えて、楽しく、使いやすい空間を目指す ・そのために必要な機能や、継続していけるような仕組みなどを社会実験を通して検証していきたい (例えば…) イルミネーション、飲食・物販のイベントなど

※これらの実験の事業者を内容を含めて今後募集予定(R6.6)

新たなにぎわい創出に向けた社会実験について

1. 社会実験の趣旨

- 市民主体のイベント開催等により、中川運河を「楽しむ」人々が増えています。
- 一方で、中川運河には賑わいを行う・人々が交流する「場」が不足していることや、賑わいを創出する活動の継続・発展性が欠けていることから、地域への賑わいの広がりが課題と考えています。



DLILL 中川運河堀止緑地マルシェ
(令和5年11月4日)

- 周辺に景観性の高い商業施設が立地する大規模空き地へ暫定拠点を整備します。
- 運河の有する資源(水辺・アート・モノづくり)を活かし、地域住民を始めとした様々な主体が交流し、地域協働による賑わいを創出することで、地域の活性化が図られることを目指します。

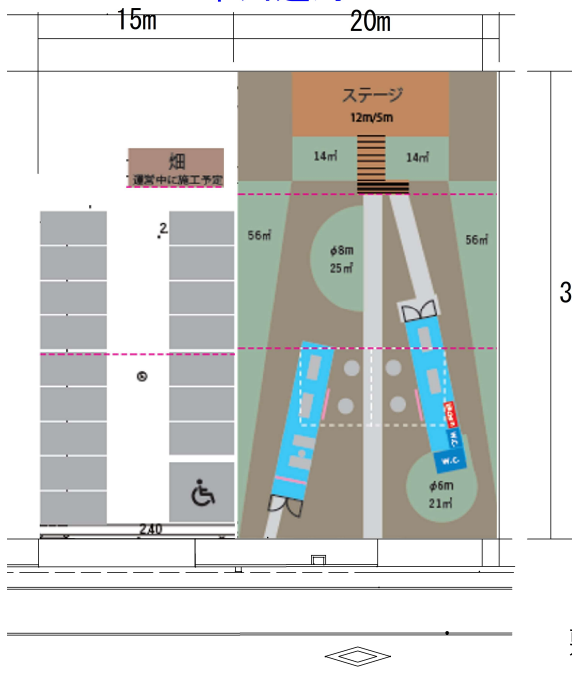
2. 社会実験の実施主体等

- 実施主体
名古屋市、名古屋港管理組合、(公財)名古屋まちづくり公社(事務局)による共同実施
- 拠点の運営主体
名古屋まちづくり公社、名古屋芸術大学 等

3. 暫定拠点の概要(予定)

施設規模	40フィートコンテナ2棟、水辺沿いのステージ (延べ面積 約100㎡)
開業時期	令和6年9月
使用対象者	地域住民、沿川企業、アーティスト等を主な利用者として想定 敷地内への出入りは自由
使用用途	イベント、コワーキング、展示、地域活動、市民主催イベント等の場として提供 ※上記運営主体のスタッフが常駐

中川運河



令和6年5月10日時点(工事中)

敷地面積 約1,000㎡(駐車場合含む)

4. 暫定拠点における主な取り組み(案)

地域イベントの減少や活動の担い手が不足する中、水辺の憩える空間でアートとものづくりを活かし、地域住民・企業の皆様の**日常に寄り添った中川運河を共に模索**することで、中川運河再生の将来像について皆様と考えるきっかけとします。

① 立ち寄りたくなる水辺空間を作る

◆ ヴィレッジ建設

- ・拠点現地は、7割程度の整備に留めている。
- ・日常生活の中で立ち寄りたくなる水辺空間とは何かを考えることから始めて、残りの3割を実際に自分たちで作り上げる。

写真はすべてイメージです



<https://world-architects.blogspot.com>

◆ 中川運河の魅力体感

- ・中川運河の魅力を生かしたアーティストの作品を展示し、鑑賞する。
- ・運河周辺のモノづくり企業の技術力を展示し、体験する。
- ・その他、中川運河の魅力を学ぶ。



② エリア全体で緩やかにつながる場を作る

◆ 共同農園

- ・参加者で共同農園を作り、野菜やハーブを収穫し、調理し、ランチする。



◆ 手仕事ワークショップ

- ・水辺の気持ちのよい場所で、手仕事を通じてみんなで一緒に時間を過ごす。



◆ 出張ワークショップ

- ・アーティスト等が地域の小学校等へ出向いて、一緒に、踊りや音楽を製作する。
- ・製作した音楽・踊りは暫定拠点で発表する。



※上記のほか、暫定拠点を活用した地域のチャレンジをサポートします。

上記は一例であり、地域の方の要望をうかがいながら、中川運河の魅力を伝えられる・体感できるコンテンツをともに作り上げていきます。その過程を通じて、中川運河再生の将来像を地域で共有したいと考えています。

【今後の展開】

- ・本実験により整備した暫定拠点は、運河資源を活かし、**地域協働による新たな賑わいを創出する場・再生の担い手を育成する場**として、今後の活用を検討します。
- ・暫定拠点での活動を通じて、**再生の核となる拠点形成に必要な機能等の検証・整理**をします。